

## 平成 16 年度通常総会議案について

平成 16 年度通常総会は去る 4 月 26 日に開催され、以下の総会議案がすべて原案通り承認されましたのでお知らせします。

### 平成 15 年度事業報告 (第 1 号議案)

#### I. 事業の概要

##### 1. 研究発表会

(1) 3 月 18 日, 19 日の両日, 慶應義塾大学矢上キャンパスにおいて, 第 93 回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「人とシステムと OR」

・特別講演 (一般公開)

1) e-ビジネスの新たな展望

北城 格太郎 (IBM アジア・パシフィックプレジデント兼  
日本アイ・ビー・エム(株)代表取締役会長)

2) 大学改革と OR マインド

安西 祐一郎 (慶應義塾大学 塾長)

・近藤次郎先生文化勲章受章記念講演会 (一般公開)

「国産旅客機 YS-11 の基本計画」

近藤次郎 (日本 OR 学会元会長・名誉会員)

・発表件数 122 件

一般発表 121 件

招待講演 1 件

・参加者数 355 名

(2) 9 月 10 日, 11 日の両日, 福岡大学において, 第 94 回研究発表会を開催した。

・特別テーマ「アジアに広がる OR」

・特別講演 (一般公開)

1) 中国の OR の現状と展望

章 祥蓀 (中国 OR 学会会長)

2) 日本の OR の現状と展望

伏見 正則 (南山大学 教授)

・パネルディスカッション (一般公開)

1) 中国の産業発展と日本の対応～生産基地から豊かな消費市場へ～

周 齊 (煙台市市長), 王 秀臣 (煙台市経済技術開発区委員長), 李 強 (煙台市経済顧問), 鈴木正徳 (九州経済産業局長), 久保善博 (福岡県産業・科学技術振興財団専務理事), 永次 廣 (株安川電機会長)

・発表件数 170 件

一般発表 167 件 (うち部会報告 7 件)

招待セッション 3 件

・参加者数 362 名

また, 12 日には(株)安川電機モートマンセンター, 日産自動車(株)九州工場を見学した。

##### 2. シンポジウム

(1) 3 月 17 日, 慶應義塾大学矢上キャンパスにおいて, 第 49 回シンポジウム「数理計画の理論と実装」を開催した。講演 6 件。参加者は 93 名であった。

(2) 9 月 9 日, 九州大学国際研究交流プラザにおいて, 第 50 回シンポジウム「OR と数学」を開催した。講演 4 件。参加者は 49 名であった。

(3) 9 月 25 日, 26 日, 東京工業大学百周年記念会館にて, 第 15 回 RAMP シンポジウムを開催した。セッションは「非線形最適化とその周辺」「日米加・最適化ロジスティクス」「バイオインフォマティクスと統計科学」, 「大規模組合せ最適化問題への挑戦」, 参加者は 126 名であった。

#### 3. 研究部会・研究グループ

##### 研究部会・研究グループ終了/中間報告

◎印 終了を示す

\*印 研究グループを示す

☆印 常設部会を示す

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
☆待ち行列	滝根 哲哉 (京都大学) 笠原 正治 (奈良先端科学技術大)	26 名	10 回	年間 8 回の定例研究会では, 2 名の講演者を招き, 各々 1 時間程度の講演と質疑応答を行っている。6 月には電子情報通信学会情報ネットワーク研究部会との共催で 2 日間のワークショップを, 1 月には 2 泊 3 日の合宿形式シンポジウムを行っている。
☆OR/MS とシステム・マネジメント	六十里 繁 (千葉商科大学) 田中 宏和 (神奈川工科大学)	13 名	6 回	本年度は 6 回の研究部会を開催した。本研究部会は講師を招聘し, これらの講演を基に企業経営, システム等の組織体の企画・管理・運営に生かすための知見を収集し, 概念, 理論, 方策等に関する議論・意見交換を行った。

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
☆数理計画 (RAMP)	福島 雅夫 (京都大学) 山下 信夫 (京都大学)	30名	1回	第15回シンポジウムを9月25・26日に開催した(参加126名)。非線形最適化、バイオインフォマティクス、組合せ最適化、ロジスティクスの4セッションを設け、数理計画の理論、計算法、応用等に関する情報交換を行った。
☆統合オペレーション	梅沢 豊 (大東文化大学) 中野 一夫 (構造計画研究所)	25名	6回	体制の検討にかなりの時間とエネルギーをかけた。結果として、当面、東日本、中部、関西、中国、九州にグループを置き、それぞれ独立して、あるいは連携して研究を推進する枠組みができた。OR誌12月号の特集に研究成果の一部を報告。
☆評価のOR	刀根 薫 (政策研究大学院大学) 篠原 正明 (日本大学)	28名	6回	DEAではMalmquist index, DEAゲーム、応用では広告媒体、国立病院、資産運用会社の効率性分析に関する発表が、AHPでは同時収束法、相互評価における不可能性定理、応用では債券ポートフォリオ構築等に関する発表があった。また野球ゲームの最適ラインナップ選定に関する研究も行われた。
◎グローバル・プロジェクトのOR	高森 寛 (青山学院大学) 三浦 英俊 (明海大学)	18名	11回	本研究部会では、グローバル・インフラストラクチャーの計画および構築における諸問題に関連したフレームワークの整理と問題解決のためのORモデルの開発を目的として研究をすすめた。
◎COM・APS(先進的スケジューリング)	西岡 靖之 (法政大学) 今泉 淳 (東洋大学)	17名	8回	全体最適化のコンセプトに基づくAPS手法を基点に、生産スケジューリングやサプライチェーンマネジメントの方法論の現状を概観し、ORが寄与すべき側面や将来の方向性に関して、実務の現状を踏まえて議論した。
数理情報学的意思決定とその応用	吉富 康成 (京都府立大学) 小出 武 (流通科学大学)	13名	6回	関西で研究会を開催した。リスクマネジメント、市場のモデル化、サプライチェーン、バイオインフォマティクス、グラフとネットワーク、分割問題、農業計画、ラフ集合などの報告があり、活発な質疑応答が行われた。
◎PFI(インフラ民活プロジェクト)	若山 邦紘 (法政大学) 浦谷 規 (法政大学)	9名	12回	本研究部会のテーマはPFIにおけるOR的諸問題である。本年度は、国内外におけるPFI事例を使い、リスク分析、BOT、BTO方式の経済的比較、また、交渉ゲームや最適化の視点からの考察を試みた。
不確実性下のモデル分析とその応用	古川 哲也 (九州大学) 時永 祥三 (九州大学)	29名	6回	不確実性下のモデル分析とその応用に関して、主としてOR学会九州支部の会員の研究者により研究発表を実施し、相互に討論を行った。その成果に関しては、OR学会の論文誌やその他の学会の論文誌、学内の紀要として掲載されている。
マーケティング・データ解析	田口 東 (中央大学) 生田目 崇 (専修大学)	30名	10回	マーケティングのデータ解析技術についてモデル化やその適用方法について議論した。マーケティング・データ解析に関する講演と、共通のデータに対する解析を競う「データ解析コンペティション」を中心に活動した。
アルゴリズム	岩田 覚 (東京大学) 宮本 裕一郎 (上智大学)	30名	7回	年間6回の研究会を開き、毎回約2名の講演者を招いて、問題解決の数理的手法としてのアルゴリズムに関する研究発表が13件あり、活発な質疑応答・情報交換が行われた。他に合宿形式の研究会を行い、3件の招待講演・特別講演と21件の一般発表を行った。
意思決定とOR	前田 隆 (金沢大学) 桑野 裕昭 (金沢学院大学)	14名	5回	主に北陸地区のOR各分野の専門家が参集し、担当者・開催場所を変えて研究集会を開催した。研究発表は大学所属研究者・院生によるものが多くを占め、内容は理論や手法、事例研究であった。
ゲームと実験	武藤 滋夫 (東京工業大学) 猪原 健弘 (東京工業大学)	50名	11回	本年度は10回の研究会と1回のショート・コースを開催した。国内外からの報告が合計11件あり、今後のゲーム理論および実験経済学の発展の方向および応用分野の可能性について有意義な意見の交換を行うことができた。
食糧・環境問題とOR	石井 博昭 (大阪大学) 塩出 省吾 (神戸学院大学)	12名	5回	食糧・環境問題における研究活動の活発化を図るため、当該分野の研究報告がなされた。様々な視点からの報告があり、ORによる研究可能性を探る上で、有意義な意見交換を行うことができた。
◎*不確実環境下での意思決定法	河村 一知 (防衛大学校) 岩村 覚三 (城西大学)	12名	6回	昨年度に続いて不確実環境下での意思決定法を中心にその周辺の諸問題について、有益な研究発表があった。年末には千葉大学においてシンポジウムを開催し9名の参加により5件の研究発表があった。

#### 4. 普及活動

##### (1) 定例講演会

開催年月	テーマ	講師	参加人数	開催地区
15年5月	ハイパーテキストシ ティ構想—まちづく りマーケティングの ビジネスモデル—	斎藤 参郎	25名	九州
15年11月	A Returns Policy for Distribution Channel Coordina- tion of Perishable Items	Hark Hwang	12名	関西
	Some Open Ques- tion of Fair Divi- sion	Milan Vlach		
15年12月	システム設計におけ る安全性の一側面	長谷川 利治	12名	中部

##### (2) OR セミナー

- ・第1回「日本の消費財サプライチェーンマネジメントの最先端と展望」を8月26日、(株)構造計画研究所で開催した。参加者34名。

題目	講師
日本における SCM	松尾 博文 (筑波大学)
日本における卸ロジスティクスの最先端	加藤 弘貴 (流通経済研究所)
日本の食品メーカー SCM の実際	杉垣 隆文 (サッポロビール)
日本のアパレル流通とコラボレーション取引の実際	中村 守孝 (伊勢丹)
パネルディスカッション「日本の消費財 SCM の展望」	

- ・第2回「経営効率評価法 DEA の理論と応用」を11月18日、(株)構造計画研究所で開催した。参加者24名。

題目	講師
包絡分析法 DEA の概要	刀根 薫 (政策研究大学院大学)
DEA の拡張モデル	山田 善靖 (東京理科大学)
DEA 効率性の確率的評価	森田 浩 (大阪大学)
DEA による国立病院の効率性測定	河口 洋行 (国際医療福祉大学)
DEA の様々な応用	上田 徹 (成蹊大学)

第3回「ブランド価値のモデル化に向けて」を2月10日、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催した。参加者36名。

題目	講師
熱中顧客モデルによるブランド健康診断	片平 秀貴 (東京大学)
プロダクト空間とブランド空間を考慮したジョイント・スペース・マップ—北米ピックアップ・トラック市場への応用—	阿部 誠 (東京大学)
技術のブランド化とそのマネジメント	岡本 智 (日産自動車)
カテゴリー視点からのブランドの評価	里村 卓也 (大阪大学)
ブランド・ロイヤルティによる消費者のセグメンテーション	守口 剛 (立教大学)

##### (3) OR 企業フォーラム

開催	テーマとゲストスピーカー	参加者
第1回 (15.11.25) 学士会館	エネルギー競争と OR ○東京ガス(株) 常務執行役員 R&D 本部長 前田忠昭	34名
第2回 (16.1.21) 於：大阪	新事業開発と OR—Optimal から Preferred へ— ○松下電工(株) 取締役専務執行役情 報機器事業分社社長 野村淳二	42名

##### (4) 企業事例交流会

- ・第11回企業事例交流会は、第93回研究発表会（慶應義塾大学）にて3月18日開催。発表件数4件。
- ・第12回企業事例交流会は、第94回研究発表会（福岡大学）にて9月10日開催。発表件数4件。

##### (5) 新宿 OR 研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催している。テーマは OR 関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。

#### 5. 刊行物

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 48, No. 3 から Vol. 49, No. 2 まで12号（本文921ページ）を発行した。各号は特集を主とし、他に論文・事例研究、論文・研究レポート、解説、連載講座、学生論文賞受賞論文要約、情報の窓、研究部会報告等を掲載した。

特集のテーマは次のとおりであった。

Vol. 48, No. 3「最近のネットワーク工学技術の動向」, 同 No. 4「AHPの応用」, 同 No. 5「医療・福祉の経済分析」, 同 No. 6「ロジスティクス・システムの新潮流」, 同 No. 7「ネットワークシステムのセキュリティ評価と危機管理」, 同 No. 8「企業事例」, 同 No. 9「ABCとTOCの対立と統合」, 同 No. 10「ブランド価値のモデル化に向けて」, 同 No. 11「まちづくり・基盤整備とOR」, 同 No. 12「統合オペレーションの戦略・マネジメント」, Vol. 49, No. 1「鉄道OR見聞録」, 同 No. 2「データ解析コンペティション：小売業におけるCRM(2)」

(2) 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 46, No. 1 から Vol. 46, No. 4 まで (541 ページ) を発行した。本年度の投稿論文は 116 編 (再投稿 40 編を含む) で、掲載論文は 32 編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集

春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。

(4) セミナーテキスト

「日本の消費財サプライチェーンマネジメントの最先端と展望」, 「経営効率評価手法 DEA の理論と応用」, 「ブランド価値のモデル化に向けて」に関するテキストを発行した。

## 6. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力

(1) 日本学術会議関連

第 19 期学術会議会員の選出が行われ、第 5 部の経営工学の会員には久米均氏 (中央大学) が 3 選され、第 3 部経営学の経営工学関連会員には能勢豊一氏 (大阪工業大学) が初選出された。当学会は第 5 部人工物設計・生産研究連絡委員会、経営管理工学専門委員会の専門委員に矢部博氏 (東京理科大学) を派遣している。

なお、第 19 期の経営工学研究連絡委員会委員には、久米均氏、棟近雅彦氏 (早稲田大学、品質管理学会、幹事)、渡辺一衛氏 (成蹊大学) が就任、経営管理工学専門委員会委員長には圓川隆夫氏 (東京工業大学、日本経営工学会)、幹事は矢部博氏の体制となっている。

(2) 経営工学関連学会協議会 (FMES) 関連

上記学術会議の委員会の役割とともに以下のシンポジウム、JABEE の仕事を行うために関連 9 学会が再立ち上げし、平成 12 年 12 月から活動している。

① シンポジウム委員会

学術会議委員会と構成 9 学会が共催して行なうシンポジウムの実行委員会であり、当学会は研究普及担当の理事相澤、矢部氏が委員に就任、委員会活動

に参加した。今年度の第 19 回シンポジウムはプロジェクトマネジメント学会が幹事となり、平成 15 年 12 月 5 日「経営工学と企業の社会的責任 (CSR: Corporate Social Responsibility)」と題して日本学術会議講堂にて開催された。

② FMES/JABEE 委員会

JABEE 大学教育プログラム認定作業に参加するため FMES が設置した委員会であり、当学会からは委員に矢部博氏 (東京理科大学)、水野眞治氏 (東京工業大学) が参加している。

今年度からは本格審査に取り組んだが、その審査に若山邦紘氏 (法政大学)、木嶋恭一氏 (東京工業大学) が参加するとともに、経営工学分野としての審査結果の調整、判定を担当する審査委員会には森雅夫氏 (慶應義塾大学)、木嶋恭一氏 (東京工業大学) がそれぞれ参加している。

経営工学関連協議会では、参加学会から年会費 (運営費) 10 万円の会費を集め、前記①②の委員会活動を実施し、当面の幹事学会は当学会が担当している。現在の加盟学会は、(社)日本経営工学会、(社)日本品質管理学会、日本開発工学会、日本信頼性学会、研究・技術計画学会、日本設備管理学会、経営情報学会、プロジェクトマネジメント学会、および当学会の 9 学会である。

(3) 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

当学会は 2001 年 2 月に正会員として加入 (会費 1 口 10 万円) するとともに上記 FMES グループとして加入、その幹事会費分 (日本経営工学会、日本品質管理学会と当学会の 3 学会が各 10 万円) を負担している。

既述の通り、大学教育プログラムの認定作業を実施している。経営工学分野では本年度、2 大学で実施された。

(4) (社)日本工学会関連

工学系 94 学協会の連合体である(社)日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員 1 名 (事務局長) が参加している。

なお、日本工学会の事務混乱は関係者の努力により收拾されたが、財政再建には 2~3 年を必要とされている。

(5) 横断型基幹科学研究団体連合 (略称：横幹連合)

この連合は「社会発展の基礎となる新しい価値体系である横断型基幹科学技術の重要性を提唱し、その創造と進歩に資する活動を行うこと」を目的に計測自動制御学会、FMES メンバーなど 30 学会が参加して、平成 15 年 4 月に設立総会を開催し、正式発足した。

当学会からは代議員として真鍋龍太郎氏（文教大学）、理事として今野浩氏（中央大学）、出版委員として杉野隆氏（国士舘大学）が派遣されている。

### 7. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「グローバル・プロジェクトのOR」研究部会を窓口を実施した。

### 8. 国際協力

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) を通じて各国のOR学会との交流、協力を図った。
- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の事務局長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。また、2003年12月に第6回APORS 2003が開催され、日本から10数名が参加した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORのVol. 52 No. 1~No. 8の国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

### 9. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・ネットワークが変える研究製造環境（化学工学会）
  - ・経営情報学会シンポジウム（経営情報学会）
  - ・平成15年度講習会（計測自動制御学会）
  - ・チュートリアル・セミナー（計測自動制御学会）
  - ・第46回自動制御連合講習会（システム制御情報学会）
  - ・第53回システム制御情報講習会（システム制御情報学会）
  - ・第46回人工知能セミナー（人工知能学会）
  - ・スケジューリング・シンポジウム2003（スケジューリング学会）
  - ・第33回信頼性・保全性シンポジウム（日本科学技術連盟）
  - ・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2003（日本学術会議）
  - ・21世紀におけるものづくりのシステムデザイン（日本学術会議第5部）
  - ・第5回日本感性工学会年次大会（日本感性工学会）
  - ・No. 03-05 生産システム部門講演会2003（日本機械学会）
  - ・No. 03-35 講習会（日本機械学会）
  - ・No. 03-59 講習会（日本機械学会）
  - ・第22回日本シミュレーション学会大会（日本シミュレーション学会）
  - ・第16回信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）
  - ・第11回研究発表会（日本信頼性学会）
  - ・ロジスティクスITフォーラム（日本ロジスティクスシステム協会）
- (他略)

### 10. 支部活動

各支部ごとに次のとおり活動した。

#### 支部活動報告

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会・幹事会 1回
研究会			研究会 3回 研究発表会 1回	研究会 42回		研究会 2回
講演会	講演会 3回	講演会 2回	定例講演会 1回 講演会 1回	講演会 3回	講演会 1回	
講習会						
出版			支部ニュース 8回 アブストラクト集 1回	支部ニューズレター 6回		

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
その他		平成16年春季研究発表会実行委員会 5回	三学会共催講演会 1回 見学会 2回	第2回OR企業フォーラム開催	シンポジウム2回 共催研究会 1回 共催セミナー1回	第50回シンポジウム 平成15年春季研究発表会 見学会

## 11. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞  
第32回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。  
・New Results on Monotone Dualization and Generating Hypergraph Transversals  
SIAM Journal on Computing vol. 32 No. 2  
牧野和久 (大阪大学)
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞  
第29回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。  
・大野勝久 (名古屋工業大学)  
・高森 寛 (青山学院大学)
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞  
第28回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。  
株式会社 NTT データ
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞  
第24回事例研究賞の選考を行い、以下のとおり決定した。  
・テレビ番組CMの割付に対する数理的アプローチ  
・テレビ番組CMの割付に対する解法  
日本オペレーションズ・リサーチ学会平成15年秋季研究発表会アブストラクト集  
大西浩志, 石田健仁, 青山浩之 (楡ヒテオリサーチ), 猿渡康文 (筑波大学), 猪飼美羽 (東京工業大学)  
・A Subproblem-centric Model and Approach to the Nurse Scheduling Problem  
Mathematical Programming Vol. 97, No. 3  
池上敦子 (成蹊大学)
- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞  
第5回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。  
高橋幸雄 (東京工業大学)
- (6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞  
第21回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定し、授賞を行った。  
・マルチンゲール変換を用いたアメリカンオプション価格の上限評価  
上園智大 (東京工業大学・修士論文)  
・A Two-Phase Optimization Method for Virtual Topology Design and Routing of Multi-Hop

## WDM Networks

- 佐藤圭介 (筑波大学・卒業論文)  
・移動時間コスト関数を考慮した時間枠つき配送計画問題に対する局所探索法  
橋本英樹 (京都大学・卒業論文)

## II. 処務の概要

### 1. 役員に関する事項

理事	非常勤
定数: 12人から16人	(現在: 16人)
任期: 2年	
監事	非常勤
定数: 2人	(現在: 2人)
任期: 2年	

### 2. 職員に関する事項 (略)

### 3. 会議に関する事項

- (1) 臨時総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
15.3.19	1. 定款細則改訂の件 2. 倫理規程の件 3. 名誉会員推薦の件 4. 平成15年度事業計画の件 5. 平成15年度予算の件	承認 " " " "

- (2) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
15.4.24	1. 平成14年度事業報告の件 2. 平成14年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成15年度16年度役員選任の件 4. 定款細則改訂の件	承認 " " "

- (3) 理事会 (略)
- (4) 支部長会議 (略)
- (5) 委員会・幹事会 (略)

### 4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

- 該当なし  
なお、職員就業規則、職員給与規程について一部改訂をした。

5. 契約に関する事項

公認会計士との委嘱契約

平成15年9月から公認会計士大内明氏と税務代理、  
税務書類作成、税務相談、会計相談の事項を委嘱する契  
約を取り結んだ。

6. 寄付金に関する事項

該当なし

7. 主務官庁の指示に関する事項

平成13年6月実施検査に基づく平成14年5月の実施  
検査結果指摘事項に対する改善報告書を提出した(平成  
15年4月)。

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名誉 会員	正会員	学生 会員	賛助会員		合 計		
				A 種	B 種			
平成15年2月末日	11	2,293	295	76 (94)	23 (23)	2,698		
平成 15年 度	入会		58	102	2 (2)	2 (2)	164 (4)	
	移動	学→正		66	△66			
		正→学		△2	2			
		正→名	1	△1				
	退 会		130	35	8 (9)	4 (4)	177 (13)	
	除 名		25	33			58	
	復 活		3				3	
純増減	1	△31	△30	△6 (△7)	△2 (△2)	△68 (△9)		
平成16年2月末日	12	2,262	265	70 (87)	21 (21)	2,630		

( ) は口数

(2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A 種	B 種
本 部	9	1,313	191	50 (64)	16 (16)
北 海 道		85	7	1 (1)	
東 北		86	0	1 (2)	
中 部	1	189	17	3 (3)	1 (1)
関 西	2	328	38	11 (11)	3 (3)
中国・四国		133	6	3 (5)	
九 州		128	6	1 (1)	1 (1)
合 計	12	2,262	265	70 (87)	21 (21)

( ) は口数

平成15年度収支計算書(第2号議案)

収支計算総括表

平成15年3月1日から平成16年2月29日

(単位:円)

1 収入の部	
科 目	一 般 会 計
基本財産運用収入	1,500
入会金収入	148,200
会費収入	43,951,440
事業収入	17,499,882
その他収入	7,621,512
当期収入合計	69,222,534
前期繰越収支差額	19,891,398
収入合計	89,113,932
2 支出の部	
科 目	一 般 会 計
管理費	33,776,616
事業費	35,184,096
当期支出合計	68,960,712
次期繰越収支差額	20,153,220
(当期収支差額)	(261,822)
支出合計	89,113,932

平成16年度17年度役員候補者名簿(第3号議案)

会務役職	定数	候 補 者	備考(非改選役員)
会 長	1 (1)	今 野 浩	
副 会 長	3 (1)	鈴 木 道 夫	腰 塚 武 志 夫
"			中 野 一 夫
庶 務	2 (1)	齋 藤 司 郎	山 下 英 明
国 際	1 (0)		栗 田 治
研究普及	2 (1)	藤 野 直 明	矢 部 博
編 集	2 (1)	加 藤 直 樹	杉 野 隆
会 計	1 (1)	枇 々 木 規 雄	
無 任 所	4 (3)	能 勢 豊 一	石 川 明 彦
		水 野 真 治	
		矢 島 安 敏	
監 事	2 (1)	高 井 英 造	古 林 隆

( ) 内は平成16年度改選数

平成 16・17 年度代議員候補者名簿(第 4 号議案)

	氏 名		氏 名		氏 名
1	相澤 りえ子	26	小金澤 章吾	51	牧本 直樹
2	青沼 君明	27	小島 平夫	52	増山 繁
3	井垣 伸子	28	小谷 重徳	53	松井 知己
4	伊倉 義郎	29	後藤 義雄	54	松尾 俊彦
5	生駒 憲治	30	近藤 幹雄	55	松山 久義
6	伊理 正夫	31	逆瀬川 浩孝	56	宮沢 政清
7	岩田 怜	32	猿渡 康文	57	森清 堯
8	上田 徹	33	三道 弘明	58	森戸 晋
9	上野 信行	34	塩出 省吾	59	森 雅夫
10	梅沢 豊	35	神 正照	60	安田 一彦
11	大鑄 史男	36	鈴木 敦夫	61	安永 通晴
12	大内 東	37	住田 潮	62	柳井 浩
13	大澤 義明	38	高森 寛	63	山上 伸
14	大西 匡光	39	田口 東	64	八巻 直一
15	大山 達雄	40	玉置 光司	65	山下 勝比拵
16	岡本 吉晴	41	田村 明久	66	山下 浩
17	小澤 正典	42	時永 祥三	67	山田 郁夫
18	海生 直人	43	刀根 薫	68	山田 孝子
19	貝川 健一	44	中川 慶一郎	69	山田 善靖
20	河合 一	45	中川 義之		
21	川島 幸之助	46	野村 淳二		
22	木島 正明	47	福川 忠昭		
23	木村 俊一	48	福島 雅夫		
24	久保 幹雄	49	伏見 正則		
25	熊本 和浩	50	前田 忠昭		